



(様式第 9)

事総務 第 23-107 号
平成 23 年 10 月 3 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 柴 忠

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	124 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	499人	136人	522.2人	看護補助者	75人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	1人	2人	1.2人	理学療法士	23人	臨床検査技師	110人
薬 剤 師	50人	3人	51.5人	作業療法士	5人	衛生検査技師	1人
保 健 師	4人	0人	4.0人	視能訓練士	11人	その他	0人
助 産 師	32人	1人	32.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,022人	39人	1,040.6人	臨床工学技士	32人	医療社会事業従事者	10人
准 看 護 師	2人	0人	2.0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	0人	0人	0.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	212人
管理栄養士	26人	0人	0.0人	診療放射線技師	66人	そ の 他 の 職 員	111人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	792.3 人	人	792.3人
1日当たり平均外来患者数	2512.6 人	人	2,512.6人
1日当たり平均調剤数			1,978剂

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
人工括約筋を用いた尿失禁手術	1人
超音波骨折治療法	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	23人
胸腔鏡下動脈管開存症手術	7人
末梢血単核球細胞による血管再生治療	8人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	8人
腹腔鏡下膀胱内手術	0人
先天性難聴の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	122人	・膿胞性乾癬	14人
・多発性硬化症	86人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	125人	・原発性胆汁性肝硬変	37人
・全身性エリテマトーデス	674人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	63人
・再生不良性貧血	51人	・混合性結合組織病	84人
・サルコイドーシス	87人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・特発性間質性肺炎	21人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	448人	・網膜色素変性症	35人
・特発性血小板減少性紫斑病	122人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	48人	・肺動脈性肺高血圧症	12人
・潰瘍性大腸炎	29人	・神経繊維腫症	9人
・大動脈炎症候群	31人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	26人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	43人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	39人	・ライソゾーム病	9人
・クローン病	19人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	19人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	246人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16人
・後縦靭帯骨化症	17人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(動脈輪閉塞症)	108人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェグナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	144人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーカー症候群)	32人	・黄色靭帯骨下症	0人
・表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	51人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節生検	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院病理部 150回/1年(週3回)
部 検 の 状 況	部検症例数 56 例 / 部検率 7.50%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高濃度酸素による肺障害に対する水素吸入の効果	小林弘祐	北里大学 医療衛生学部	1,040,000円	補委 日本学術振興会
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 1 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pacing Clin Electrophysiol	X-ray radiation causes electromagnetic interference in implantable cardiac pacemakers	Hirose M	医療衛生学部
Desalination and Water Treatment	Removal of an endotoxin fragment (LipidA) by an endotoxin-retentive filter	Kokubo K	医療衛生学部
Advances in Experimental Medicine and Biology	Macrophages that survive hyperoxia exposure have higher superoxide dismutase activity in their mitochondria	Kokubo K	医療衛生学部
Advances in Experimental Medicine and Biology	Respiratory Rhythms in Healthy Subjects and Patients	Shimane M	医療衛生学部

計 4 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性疾患克服研究事業 特発性心筋症に関する調査研究	和泉徹	循環器内科	110万	補委 厚生労働省
地域医療基盤開発推進研究事業 心臓病の再発予防を目的とした地域連携クリニカルパスの電子化モデル構築に関する研究	和泉徹	循環器内科	2100万	補委 厚生労働省
心不全・心筋症の免疫学的発症機構の解明とその臨床応用	猪又孝元	循環器内科	900万	補委 車両財団公益資金 祈念財団
c-Ablを介する新しい心肥大シグナリングの解明	東條大輝	循環器内科	100万	補委 独立行政法人日本 学術振興会
Kv1.3移入繊維芽細胞による不全心筋の活動電位再生と逆リモデリング誘導の研究	庭野慎一	循環器内科	500万	補委 独立行政法人日本 学術振興会

計 5 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J, 71:2193-99	A National Survey on Myocarditis Associated With the 2009 Influenza A (H1N1) Pandemic in Japan.	Ukimura A, Izumi T, Matsumori A	循環器内科
J Pharmacol Sci, 112:167-75	Effect of Erythropoietin on Angiogenesis with the Increased Adhesion of Platelets to the Microvessels in the Hind-limb Ischemia Model in Mice.	Kato S, Amano H, Izumi T, Majima M. 他6名	循環器内科
Cardiovasc Diabetol, 14:9-17	Elevated Circulating Levels of an Incretin Hormone, Glucagon-like Peptide-1, are Associated with Metabolic Components in High-risk Patients with Cardiovascular Disease.	Yamaoka-Tojo M, Tojo T, Masuda T, Izumi T. 他3名	循環器内科
Circ J, 74:2758-9	MRI is Useful for Diagnosis of H1N1 Fulminant Myocarditis.	Iakeuchi I, Imaki R, Soma K, Izumi T. 他1名	循環器内科
J Card Cases, 1:171-5	Myocardial Infarction in a Premenopausal Woman With a Decreased Serum Estrogen Level due to Leuprorelin Acetate.	Sasaki T, Kurosawa T, Ikeda Y, Izumi T. 他4名	循環器内科
Diabetes Care, 33:2320-26	Prognostic Value of Gated Myocardial Perfusion Imaging for Asymptomatic Patients with Type 2 Diabetes: the J-ACCESS 2 Investigation.	Noda C, Masuda T, Matsuyama N, Izumi T. 他3名	循環器内科
Int Heart J, 51:399-403	Risks and Benefits of Combined Use of Bucolome and Warfarin in Anticoagulation Therapy.	Hatakeyama Y, Niwano S, Niwano H, Izumi T. 他1名	循環器内科
Circ J, 75:662-71	N-Acetyl Cysteine Suppresses the Progression of Ventricular Remodeling in Acute Myocarditis: Studies in an Experimental Autoimmune Myocarditis (EAM) Model, Myocarditis (EAM) Model.	Niwano S, Niwano H, Machida Y, Izumi T. 他4名	循環器内科
Circ J, 75: 1386-1393	Progression of Ventricular Remodeling and Arrhythmia in the Primary Hyperoxidative State of Glutathione Depleted Rats.	Kurokawa S, Niwano S, Niwano H, Izumi T. 他5名	循環器内科
Circ J, 74:1794-1795	Systemic acidosis in acute myocardial ischemia: Is it a cause or result of life-threatening ventricular arrhythmia?	Niwano S, Tojo T. Systemic acidosis in acute myocardial ischemia	循環器内科

Circ J, 74: 876-884	Importance of Morphological Changes in T-U waves During Bepridil Therapy as a Predictor of Ventricular Arrhythmic Event.	Kurokawa S, Niwano S, Kiryu M, Izumi T.他6名	循環器内科
Heart, 95:1230-1237	Prognostic significance of Frequent Ventricular Contractions Originating from the Ventricular Outflow Tract in Patients with Normal Left Ventricular Function.	Niwano S, Wakisaka Y, Niwano H, Izumi T.他4名	循環器内科
Circ J, 73: 1210-1218	Prediction of the efficacy of antiarrhythmic agents on the interruption of persistent atrial fibrillation by spectral analysis of the fibrillation waves on the surface ECG.	Niwano S, Sasaki T, Kurokawa S, Izumi T.他5名	循環器内科
Circ J, 73:1020-1027	Dose-Response Effects of Bepridil in Patients with Persistent Atrial Fibrillation Monitored With Transtelephonic Electrocardiograms: A Multicenter, Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Study (J-BAF study)	Tamasaka T, Ogawa S, Sato T, Niwano S, Origasa J, J-BAF investigators他12名	循環器内科

計 14件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療に関する研究	小泉和二郎	消化器内科	100万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究-粘膜下層浸潤臨床病期I(T1N0M0)食道がんに対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験:JCOG0508」班	田邊 聡	消化器内科	30万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
早期胃がん内視鏡切除症例のWebを用いたがん登録システムによる前向きがん登録に関する研究	田邊 聡	消化器内科	20万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設協働研究	田邊 聡	消化器内科	100万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
ポリプ切除の大腸がん予防に及ぼす効果の評価と内視鏡検査間隔の適正化に関する前向き臨床試験	小林清典	消化器内科	10万円	補委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)肝癌モデルマウスにおけるアンジオテンシンII受容体type1拮抗剤(Olmesartan	田中賢明	消化器内科	30万円	補委 北里大学医学部けやき会助成
肝微小循環障害における血小板の役割	南野 勉	消化器内科	70万円	補委 キヤタピラー・ジャパン(株)若手研究者研究助成金

計 7件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Oncol 2010/4; 21 (4)	Phase II study of S-1 plus leucovorin in patients with metastatic colorectal cancer.	小泉和二郎	消化器内科
Cancer Chemother Pharmacol 2010/5; 65 (6)	Phase II study of S-1 as first-line treatment for elderly patients over 75 years of age with advanced gastric cancer: the Tokyo Cooperative Oncology Group study.	小泉和二郎	消化器内科
Ann Oncol 2010/5; 21 (5)	Phase II study of oxaliplatin plus S-1 as first-line treatment for advanced gastric cancer (G-SOX study).	小泉和二郎	消化器内科
J Clin Pharm Ther 2010/6; 35 (3)	Quadruple therapy with ecabiet sodium, omeprazole, amoxicillin and metronidazole is effective for eradication of Helicobacter pylori after failure of first-line therapy (KDOG0201 Study).	小泉和二郎	消化器内科
The Kitasato Medical Journal 2011/3; 41 (1)	Basic studies of vascular images as seen with indocyanine green-guided ray electronic endoscopy as compared with microangiography.	田邊 聡	消化器内科
Hepato Res 2010/10; 40 (10)	Reliability and validity of splenic volume measurement by 3-D ultrasound.	日高 央	消化器内科
Eur J Intern Med 2010/8; 21 (4)	Entecavir is an optional agent to prevent hepatitis B virus (HBV) reactivation: a review of 16 patients.	渡邊真彰	消化器内科
Eur J Pharmacol 2011/2; 652 (1-3)	Protective effect of geranyigeranyiacetone against loxoprofen sodium-induced small intestinal lesions in rats	岩井知久	消化器内科
World J Gastroenterol 2010/9; 16 (36)	Clinicopathological evaluation of duodenal well-differentiated endocrine tumors.	石戸謙次	消化器内科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2010/11; 299 (5)	Role of microsomal prostaglandin G synthase-1 in the facilitation of angiogenesis and the healing of gastric ulcers	阿江太佳子	消化器内科
Digestion 2011/2; 84 (1)	Submucosal Fibrosis and Basic-Fibroblast Growth Factor-Positive Neutrophils Correlate with Colonic Stenosis in Cases of Ulcerative Colitis.	山縣 仁	消化器内科

計 11件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
蛋白尿出現機序の研究	鎌田貢壽	腎臓内科	770,000	補	神奈川県衛生部
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本腎臓学会誌52	悪性胸腺腫胸膜播種への放射線治療により寛解を得た難治性微小変化型ネフローゼ症候群の1例	岡本智子	腎臓内科
腎炎症例研究27	進行性の視力低下とネフローゼ症候群を呈した結節性糸球体硬化症の1例	古谷昌子	腎臓内科
臨床体液研究会誌42	食道癌の化学療法中に電解質異常を伴い痙攣重積発作を生じた1症例	林みゆき	腎臓内科
モデル動物利用マニュアル	Heymann腎炎	鎌田貢壽	腎臓内科

計 4

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
中枢神経ループスにおける抗神経細胞抗体の解析	廣畑 俊成	膠原病感染内科	100万	補委	文部科学省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病感染内科	200万	補委	厚生労働省
成人スティル病の実態調査	廣畑 俊成	膠原病感染内科	71.3万	補委	東京都福祉保健局
生態防御系反応性異常疾患群の機能調節を目指した治療の開発	廣畑 俊成	膠原病感染内科	50万	補委	文部科学省
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	岡田 純	膠原病感染内科	170万	補委	厚生労働省
関節リウマチの骨髄における発現遺伝子の解析	橋本 篤	膠原病感染内科	150万	補委	文部科学省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 6件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol	An attack of acute neuro-Behçet's disease during the course of chronic progressive neuro-Behçet's	Matsui T, Ishida T, Tono T, Yoshida T,	膠原病感染内科
Mod Rheumatol	Anti-ribosomal P protein antibody induces Th1 responses by enhancing the production of IL-12 in	Nagai T, Yanagida T, Hirohata S.	膠原病感染内科
日本内科学会雑誌	Behçet病の診断と治療の進歩	廣畑俊成	膠原病感染内科
Medicina	【関節リウマチを疑ったら 診断・治療のUpdateと鑑別すべき膠原病】 関節リウマチと鑑別が必要な疾	田中任明, 星健太, 廣畑俊成	膠原病感染内科
神奈川医学学会雑誌	最近の検査と治療	田中住明	膠原病感染内科
診断と治療	【膠原病 その入り口から慢性期まで】 各論 診断と治療の実際 Behçet病	廣畑俊成	膠原病感染内科
日本腎臓学会誌	抗リボソームP抗体とSLEの臓器障害	廣畑俊成	膠原病感染内科
日本内科学会雑誌	【膠原病に伴う神経・筋障害 診断と治療の進歩】 膠原病に伴う神経・筋障害	廣畑俊成	膠原病感染内科
日本臨床	【関節リウマチ(第2版) 寛解を目指す治療の新時代】 関節リウマチの成因と病態生理 炎症メディ	廣畑俊成	膠原病感染内科
医学のあゆみ	【肺高血圧 内科的治療の最前線 この難治性疾患に挑む】 膠原病合併PAH	田中任明, 東野紀子	膠原病感染内科

計 10 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
一般精神科での成人発達障害臨床における児童精神科医による診療支援に関する研究.	井上勝夫	精神神経科	400,000	補委	○厚生労働省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 1件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神科治療学26(1);95-98,2011.1	ネフローゼ症候群の治療中にステロイド精神病を発症した児童の一例.	秋葉大輔、井上勝夫、岡田昌彦、伊藤正尚	精神神経科

計 1件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト頭部皮膚由来毛包幹細胞を用いた神経障害を伴う損傷皮膚の再生	天羽康之	皮膚科	2010年度60万円	補 2008-2010年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究B)
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計 1 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Journal of Dermatology 20 (3), p.283-288, 2010	Prognostic role of hair follicle and neural stem cell marker nestin in malignant melanoma patients	田辺健一、天羽康之	皮膚科
Medical Molecular Morphology 43 (2), p.123-127, 2010	Embryonic development of hair follicle pluripotent stem (hfPS) cells	天羽康之	皮膚科
The Journal of Dermatology 37 (6), p.505-511, 2010	Nestin is expressed in HMB-45 negative melanoma cells in dermal parts of nodular melanoma	狩野真帆、天羽康之	皮膚科
European Journal of Dermatology 21 (2), p.209-212, 2011	Hair follicle stem cell marker nestin expression in regenerating hair follicles of patients with alopecia areata.	天羽康之	皮膚科
Journal of Dermatological Science 60 (3), p.131-137, 2010	The advantages of hair follicle pluripotent stem (hfPS) cells over ES and iPS cells for regenerative medicine	天羽康之	皮膚科

計 5 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌肝転移制御を目指したRAS・TGFベータ経路活性化の検討	渡邊昌彦	外科	70万	補 ⑤ 科学技術振興機構(戦略的創造研究推進事業)
ステージI進行胃癌における再発予測システムの開発	山下継史	外科	70万	補 ⑤ 科学技術振興機構(戦略的創造研究推進事業)
胃癌の腹水微量癌細胞の分子生物学的診断法の開発	菊池史郎	外科	140万	補 ⑤ 科学技術振興機構(戦略的創造研究推進事業)
直腸癌の側方リンパ節転移のホップ遺伝子メチル化による検出と予測に関する検討	中村隆俊	外科	70万	補 ⑤ 科学技術振興機構(戦略的創造研究推進事業)
胃癌のリンパ節転移進展機序の解明	桜本信一	外科	70万	補 ⑤ 科学技術振興機構(戦略的創造研究推進事業)
高齢者がん治療アルゴリズム開発のためのガイドポストデータベースの構築と必須情報及びその推定モデルの策定	渡邊昌彦	外科	85万9千	補 委 厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	渡邊昌彦	外科	50万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	佐藤武郎	外科	50万	補 委 厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業

計 8件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
北里医学	医原性仮性動脈瘤に対するバルーン閉塞下経皮的トロンピン注入療法の意義	田村 幸穂	外科
ONCOGENE	Aggressive marker of promoter DNA methylation of HOP gene in gastric cancer.	大木 暁	外科
ONCOGENE	Ptential utility of HOP homeobox gene promoter methylation as a marker of tumor aggressiveness in gastric cancer	大木 暁	外科
Biomed Pharmacother.	mPGES-1-expressing bone marrow-derived cells enhance tumor growth and angiogenesis in mice.	鎌田 弘樹	外科
INTERNATIONAL JOURNAL OF CANCER	Phosphatase of Regenerating Liver-3 as a Convergent Therapeutic Target for Lymph Node Metastasis in Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	大木 暁	外科
Ann Surg oncol.	FANCD2 mRNA overexpression is a bona fide indicator of lymph node metastasis in human colorectal cancer.	小澤 平太	外科
日本周産期・新生児医学会雑誌	出生前診断された卵巣嚢胞に対する治療方針	田中 潔	外科
SURGERY	Technique of esophagojejunostomy using transoral placement of the pretitled anvil head after laparoscopic gastrectomy for gastric cancer	桜本 信一	外科
SURGICAL ENDOSCOPY AND OTHER INTERVENTIONAL TECHNIQUES	Appropriateness of splenectomy for advanced cancer located in the upper third of the stomach	桜本 信一	外科
J Gastrointest Surg.	Anastomotic leakage contributes to the risk for systemic recurrence in stage II colorectal cancer.	加藤 弘	外科
J Surg Oncol.	Genetic alterations of K-ras may reflect prognosis in stage III colon cancer patients below 60 years of age.	小野里 航	外科
SURGERY TODAY	Genomic and epigenetic profiles of gastric cancer: Potential diagnostic and therapeutic applications.	山下 継史	外科
Ann Surg Oncol.	Prognostic Significance of Preoperative Bowel Obstruction in Stage III Colorectal Cancer.	加藤 弘	外科
Int J Radiat Biol Phys	A Phase II trial of neoadjuvant preoperative chemoradiotherapy with S-1 plus irinotecan and radiation in patients with locally advanced rectal cancer: clinical feasibility and response rate.	佐藤 武郎	外科

計14件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
微乳頭腺構造を有する肺腺癌をモデルとした癌浸潤・転移メカニズムの解析	佐藤 之俊	呼吸器外科学	117 万円	補委 独立行政法人 日本学術振興会
肺癌個別化医療を目指した肺癌再発予測診断システムの構築	伊豫田 明	呼吸器外科学	143 万円	補委 独立行政法人 日本学術振興会
虚血組織におけるVEGFR1チロシンキナーゼの血管新生増強メカニズムの解析	天野 英樹	呼吸器外科学	208 万円	補委 独立行政法人 日本学術振興会
組織亜型からみた肺癌の生物学的特性の把握と治療法の開発に関する研究	伊豫田 明	呼吸器外科学	60 万円	補委 北里大学 教員プロジェクト研究
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 4 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surg Today	Predictors of postoperative survival in patients with locally advanced non-small cell lung carcinoma	伊豫田 明	呼吸器外科学
Current signal transduction therapy	Combined Effect of Anti-Angiogenic Agents, Angiotensin Type 1 Receptor Antagonists and Radiation Therapy	天野 英樹	呼吸器外科学
Journal of cardiothoracic surgery	Thymic large cell neuroendocrine carcinoma: report of a resected case - a case report.	小川 史洋	呼吸器外科学

計 3 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
頭蓋底手術における手術成績向上に関する研究	藤井清孝 岡 秀宏	脳神経外科	100万円	補委 文部科学省
脳神経外科領域における神経内視鏡手術の有用性	藤井清孝 岡 秀宏	脳神経外科	100万円	補委 文部科学省
脳腫瘍における5-ALAの蛍光診断	岡 秀宏 宇津木 聡	脳神経外科	100万円	補委 文部科学省
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 3件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroradiology ; 51:757-759,2009	Direct puncture approach of the extraconal portion of the superior ophthalmic vein for carotid cavernous fistulas	Kurata A, Suzuki S, Iwamoto M, et al	脳神経外科
J Trad Med; 27:78-83,2010	Saireito protects renal function during high-dose methotrexate therapy	Utsuki S, Oka H, Miyajima, et al.	脳神経外科
Surg Neurol 72;276-277,2009	Carbord dural reactor for drilling of the shenoid wing in the pterional approach	Shimizu A, Hagiwara H, Nakayama K, et al	脳神経外科
Anticancer Research 30;265-270, 2010	Prognostic significance of nuclear DJ1 expression in astrocytoma	Miyajima Y, Satou Y, Oka H, et al.	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 50;614-615, 2010	Preventive sutching for migration of a peritoneal catheter into the abdominal wall after ventriculoperitoneal shunting-Technical note	Nakahara K, Shimizu S, Oka H, et al	脳神経外科
Genes &Development 24;2205-2218, 2010	PDGFA gene rearrangements are frequent genetic events in PDGFRA-amplified glioblastomas	Ozawa T, Brennan CE, Wang L, et al.	脳神経外科

計 6件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
筋ジストロフィーに伴う脊椎変形に対する外科的治療	高相 晶士	整形外科	70 万円	補 委 厚生労働省
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計 1件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur Spine J. 2010 May;19(5):787-96.	1. Can the caudal extent of fusion in the surgical treatment of scoliosis in Duchenne muscular dystrophy be stopped at lumbar 5?	Takaso M, Nakazawa T, Imura T, Ueno M, Saito W, Shintani R, Takahashi K,	整形外科
Eur Spine J. 2010 Jul;19(7):1200-5.	2. Existence of pyogenic spondylitis in Modic type 1 change without other signs of infection: 2-year follow-up.	Ohtori S, Koshi T, Yamashita M, Yamauchi K, Inoue G, Suzuki M, Takaso M, Orita S,	整形外科
Int Orthop. 2010 Jun;34(5):695-702.	3. Surgical management of severe scoliosis with high risk pulmonary dysfunction in Duchenne muscular dystrophy: patient function, quality of life and satisfaction.	Takaso M, Nakazawa T, Imura T, Okada T, Fukushima K, Ueno M, Takahira	整形外科
Eur Spine J. 2010 Jun;19(6):989-94.	4. Rotational hypermobility of disc wedging using kinematic CT: preliminary study to investigate the instability of discs in degenerated scoliosis in the lumbar spine.	Ohtori S, Yamashita M, Inoue G, Yamauchi K, Koshi T, Suzuki M, Takaso M,	整形外科
Int Orthop. 2010 Aug;34(6):855-61.	5. Autogenous iliac crest bone graft versus banked allograft bone in scoliosis surgery in patients with Duchenne muscular dystrophy.	Nakazawa T, Takaso M, Imura T, Adachi K, Fukushima K, Saito W, Miyajima G,	整形外科
Int Orthop. 2010 Mar;34(3):401-6. Epub 2009 Apr 2	6. Surgical management of severe scoliosis with high-risk pulmonary dysfunction in Duchenne muscular dystrophy.	Takaso M, Nakazawa T, Imura T, Takahira N, Itoman M, Takahashi K,	整形外科

計 6件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
					計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY	Nomogram to predict seminal vesicle invasion using the status of cancer at the base of the prostate on systematic biopsy	MAKOTO OHORI, KAZUMASA MATSUMOTO, TAKEFUMI SATOH,	泌尿器科
INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY	Profilin 1 overexpression in renal cell carcinoma	MASATSUGU IWAMURA, YOSHIO KODERA	泌尿器科
CANCER GENOMICS & PROTEOMICS	Proteomic Study of Sera from Patients with Bladder Cancer: Usefulness of S100A8 and S100A9 Proteins	MINAMI, YUICHI SATO, TOSHIHIDE	泌尿器科
日本泌尿器科学会雑誌	抗凝固薬継続下に施行したHoLEP(Holmium Laser Enucleation of the Prostate)の経験	平山貴博、設楽敏也、藤田哲夫、ほか	泌尿器科
			計 4件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
急性高度難聴に関する調査研究	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	100 万	補 厚生労働省 委
喉頭機能温存手術 SCL-SHEPの術後音声嚥下機能に関わる生理的エビデンスの解析	中山 明仁	耳鼻咽喉科	90 万	補 文部科学省 委
抗利尿ホルモン投与による血管条の形態変化に伴う聴力障害に関する研究	長沼 英明	耳鼻咽喉科	140 万	補 文部科学省 委
扁桃における糖鎖不全IgA産生メカニズムの解明	伊藤 昭彦	耳鼻咽喉科	100 万	補 文部科学省 委
微小骨化を呈する甲状腺乳頭癌における浸潤・転移機能と骨化メカニズムの解析	竹田 昌彦	耳鼻咽喉科	140 万	補 文部科学省 委
喉頭亜全摘出術(SCL-CHEP)のMD-CTによる3次元的解析	清野 由輩	耳鼻咽喉科	50 万	補 文部科学省 委
超高速度デジタル撮影による喉頭機能温存手術後の音源定位に関する研究	林 政一	耳鼻咽喉科	60 万	補 文部科学省 委

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

⑬-2

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Kitasato Medical Journal.	Auditory brainstem response record of Down syndrome under an anesthesiologist's control.	落合 敦	耳鼻咽喉科
AURIS NASUS LARYNX	Inverted epiglottis: A postoperative complication of supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy.	中山明仁	耳鼻咽喉科
The Journal of Laryngology & Otology	High-speed digital imaging laryngoscopy of the neoglottis following supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy.	林 政一	耳鼻咽喉科
HEAD AND NECK	Delayed wound infection after supracricoid partial laryngectomy following failure of high dose radiation.	中山明仁	耳鼻咽喉科
AURIS NASUS LARYNX	Clinical significance of intraoperative surgical margin study in supracricoid laryngectomy.	中山明仁	耳鼻咽喉科
Japanese Journal of Clinical Oncology	Phase I/II Trial of Concurrent Use of S-1 and Radiation Therapy for T2 Glottic Cancer.	中山明仁	耳鼻咽喉科
頭頸部癌	精神神経系既往症を有する頭頸部進行癌症例の治療.	清野由輩	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会誌	耳鼻咽喉科外来における嚥下障害スクリーニング項目の検討.	西山耕一郎	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会誌	嚥下障害に対する外来での対応法の試み.	西山耕一郎	耳鼻咽喉科
AUDIOLOGY JAPAN	突発性難聴の社会的問題.	岡本牧人	耳鼻咽喉科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
健康ふしぎ発見ニュース	いろいろな目の錯覚を楽しんでみよう!	後関利明	眼科
メディカル・ビューポイント	Simple..., and Stable! -アバンシブプリセット-	清水公也	眼科
神経眼科	特集:三次元映像と視覚の科学 序論	原直人	眼科
IOL&RS	LASIKの周術期管理	五十嵐章史	眼科
IOL&RS	Refractive Lenticule Extraction(ReLEx)~エキシマレーザーを必要としない新たな屈折矯正手術~	神谷和孝	眼科
眼科臨床紀要	近赤外分光法(NIRS)を用いた3D映像注視時の脳機能の検討	半田知也	医療衛生学部
眼科臨床紀要	斜位近視術前後における相対輻湊変化	榊原七重	医療衛生学部
眼科臨床紀要	糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術の術後経過	山口絵里	眼科
眼科臨床紀要	小児の視神経疾患	市邊義章	眼科
眼科臨床紀要	ラタンプロストとタフルプロストの眼圧下降効果の比較検討	江黒友春	眼科
眼科臨床紀要	複数回移植片機能不全に対して人口角膜Boston K-pro移植術を施行した一例	佐藤信之	医療系研究科
眼科臨床紀要	屈折矯正手術後の眼内レンズ度数計算	飯田嘉彦	眼科
眼科臨床紀要	北里大学病院における眼科写真業務の紹介	山口純	眼科
日本の眼科	第41回全国学校保健・学校医大会の印象記 4:中・高校生のコンタクトレンズのケア状況	坂本則敏	眼科
福井新聞	白内障手術の普及を	清水公也	眼科
日本の眼科	体力と経験	石川均	医療衛生学部
日本の眼科	次の目標は?	庄司信行	医療衛生学部
トーリック眼内レンズ-Toric IOL-	コラム8 トーリック眼内レンズの成功法	清水公也	眼科
専門医のための眼科診療クオリファイ	調節の異常とその治療	浅川賢	医療衛生学部
眼科検査のグノーティ・セアウト	知っているつもりで知らないことが多い調節検査	浅川賢	医療衛生学部
トーリック眼内レンズ-Toric IOL-	第1章乱視の種類	神谷和孝	眼科
トーリック眼内レンズ-Toric IOL-	第9章術後検査	神谷和孝	眼科
視能矯正学用語解説辞典	アッペ数、色収差、ガンマ角、最小錯乱円、焦点	魚里博	医療衛生学部
専門医のための眼科診療クオリファイ1 屈折異常と眼鏡矯正	眼の屈折要素	魚里博	医療衛生学部
専門医のための眼科診療クオリファイ1 屈折異常と眼鏡矯正	調節力の測定	川守田拓志	医療衛生学部
トーリック眼内レンズ-Toric IOL-	乱視はどこまで治すべきか?乱視と焦点深度との関係	魚里博	医療衛生学部
眼科検査のグノーティ・セアウト	視野検査:早期緑内障診断に有用な視野検査の使い分け	庄司信行	医療衛生学部
眼科検査のグノーティ・セアウト	コカイン点眼試験以外に、Horner症候群の診断ができるものがある	石川均	医療衛生学部
新ES NOW NO.5 眼科手術のロジック こう考えれば手術は	Ⅲ. 新しい手術器械、手技 ナイフ	神谷和孝	眼科
神経眼科	瞳孔の神経眼科入門④ 瞳孔と眼光学	川守田拓志	医療衛生学部
Journal of refractive surgery	Effect of Pupil Size on Visual Acuity in a Laboratory Model of Pseudophakic Monovision	川守田拓志	医療衛生学部
IOL&RS	特集 フェムトセカンドレーザー応用の実際 今後の展望	神谷和孝	眼科
IOL&RS	眼内レンズによるモノビジョン法の満足度に影響する因子の検討	橋本篤文	眼科

計50件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
川崎病の効果的治療法の開発と 病因究明:分子遺伝学的基盤と プロテオーム解析	石井 正浩	小児科学	169万	補 文部科学省 委
心臓閉心手術後および難治性川 崎病児の予防接種の至適時期の 検討:液性および細胞性免疫動態 の解析	石井 正浩	小児科学	100万	補 財団法人宮田心臓 委 病研究振興基金
難治川崎病T細胞microRNA発現 網羅解析とVβレパトワ解析に基 づく効果的治療法の開発	緒方 昌平	小児科学	360万	補 公益財団法人小児 委 医学研究振興財団
難治性川崎病に対する効果的治 療戦略の開発:臨床的および分子 遺伝学的検討	扇原 義人	小児科学	50万円	補 公益財団法人森永 委 奉仕会
小児肥満症の改善、予防の統合 研究—基礎から実践へ、エビデ ンスある介入を目指して—	田久保 憲行	小児科学	320万円	補 文部科学省 委

計 5件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Journal of Pediatrics	Health-Related Quality of life in Adolescents and Young Adults with a History of Kawasaki Disease	Muta H,石井正浩	飯塚市立病院, 北里大学
The Journal of Pediatrics	Percutaneous Coronary Intervention versus Coronary Artery Bypass Grafting for Stenotic Lesions after Kawasaki Disease	Muta H,石井正浩	飯塚市立病院, 北里大学
Mod Rheumatol	Kikuchi-Fujimoto disease developed into autoimmune disease: a report of two cases	緒方昌平, 坂東田紀, 齊藤典充, 勝岡憲生	北里大学
Pediatr Int	Blood concentrations of midazolam in status epilepticus using an appropriate condition of HPLC	岩崎俊之, 野々田豊, 細田のぞみ, 石井正浩	北里大学
Kitasato Med J	Interictal EEG findings in 12 cases of neonatal seizures after asphyxia	岩崎俊之, 野々田豊, 細田のぞみ, 石井正浩	北里大学
Heart Asia	Incomplete Kawasaki disease: early findings consist of congestive heart failure due to valvular heart disease	本田崇, 緒方昌平, 石井正浩	北里大学

計 6件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
わが国における新しい妊婦健診体制構築のための研究	海野 信也	産婦人科	400,000	補 委 東京女子医科大学
地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究	海野 信也	産婦人科	3,000,000	補 委 東北大学
				補 委
				補 委
				補 委
				補 委

計 2件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Gynaecol Obstet	Effect of the interval between onset of sustained fetal bradycardia and cesarean delivery on long-term neonatal neurologic prognosis.	Kamoshita E,	産婦人科
Eur J Gynaec Oncol	concomitant expression of HER2 and HIF-1 α is a predictor of poor prognosis in uterine cervical carcinoma treated with concurrent	Niibe Y,	放射線科
Eur J Gynaecol Oncol.	Initial analysis of relationship between plasma platinum concentration and hematological adverse reaction associated with weekly chemotherapy using nedaplatin in	Hamada Y,	放射線科
Biomed Pharmacother.	The inducible prostaglandin E synthase mPGES-1 regulates growth of endometrial tissues and angiogenesis in a mouse implantation model.	Numao A,	産婦人科
J Infect. 2011 Jan	Characteristics of pregnant Japanese women who required hospitalization for treatment of pandemic (H1N1) 2009	Nakai A	産婦人科

計 5件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 0 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Laboratory	Acute inflammatory biomarkers in cerebrospinal fluid as indicator of blood cerebrospinal fluid barrier in Japanese subjects	狩野有作	臨床検査部
日本臨床検査医学会誌	動脈硬化マーカーと生理検査－抗動脈硬化療法における変動とその有用性について－	狩野有作	臨床検査部
日本臨床検査医学会誌	人工透析導入後の慢性腎不全患者における脳波基礎律動と血液生化学データとの相関性について	小野澤裕也	臨床検査部
超音波検査技術	超音波パルスドプラ法を用いた肝切除前後の肝血流動態の検討	柳原美智子	臨床検査部
Kitasato Med J	Value of Hospital Laboratory PCR for Regular Examination of Cokking Staff Detection of Enterohemorrhagic Escherichia coli.	二本柳伸	臨床検査部

計 5 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
潰瘍性大腸炎特異的新規遺伝子CITED2の腸炎発症・発癌機序に果たす役割	吉田 功	病院病理部	1,100,000	補委 日本学術振興会
アポトーシス関連遺伝子Par-4による子宮内膜発癌抑制機構の解明と治療への展開	三枝 信	病院病理部	700,000	補委 日本学術振興会
				補委
				補委
				補委
				補委

計 2 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY	CITED2 is activated in ulcerative colitis and induces p53-dependent apoptosis in response to butyric acid	吉田 功	病院病理部
Anticancer Research	Sporadic TP53 transition mutations in chronic cholecystitis are possibly linked to gallbladder carcinogenesis	N.Yanagisawa, K.Yamashita, et al.	病院病理部
Human Pathology	Autocrine and paracrine roles of VEGF/VEGFR-2 and VEGF-C/VEGFR-3 signaling in angiosarcomas of the scalp and face	Tokuyama W, Mikami T, 他	病院病理部
Digestion	Submucosal fibrosis and basic-fibroblast growth factor positive neutrophils correlate with colonic stenosis in cases of ulcerative colitis	Yamagata M, Mikami T, 他	病院病理部、他
Journal of Pathology	Pin1 acts as a modulator of cell proliferation through alteration in NF- κ B but not β -catenin/TCF4 signaling in a subset endometrial carcinoma cells	三枝 信	病院病理部
Journal of Pathology	Transcriptional regulation of pro-apoptotic Par4 by NF- κ B/p65 and its function in controlling cell kinetics during early events in endometrial tumorigenesis	三枝 信	病院病理部

計 6 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺癌の放射線療法・化学療法の治療効果予測に関する分子生物学的・病理組織学的研究	早川和重	放射線治療科	700,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C)	
動体追跡医科学研究	早川和重	放射線治療科	200,000	補 委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C)	
がん診療ガイドラインの作成(新規・更新)と公開の維持およびその在り方に関する研究	早川和重	放射線治療科	1,850,000	補 委 厚生労働省 科学研究費補助金 がん臨床研究事業 (平田班)	
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	早川和重	放射線治療科	500,000	補 委 厚生労働省 がん研究助成金 (平岡班)	計 4件
				補 委	合計 58件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門	
Jpn J Clin Oncol	Phase I/II Trial of Concurrent Use of S-1 and Radiation Therapy for T2 Glottic Cancer.	Nakayama M, Hayakawa K, et al	放射線治療科	
Jpn J Clin Oncol	High-dose-rate Intracavitary Brachytherapy Combined with External Beam Radiotherapy for Stage IIIb Adenocarcinoma of the Uterine Cervix in Japan: A Multi-Institutional Study of Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology 2006-2007 (Study of JASTRO 2006-2007).	Niibe Y, Hayakawa K, et al	放射線治療科	
Brachytherapy	Differences between intraoperative ultrasound-based dosimetry and postoperative computed tomography-based dosimetry for permanent interstitial prostate brachytherapy.	Ishiyama H, Hayakawa K, et al	放射線治療科	
Eur J Gynaecol Oncol.	Initial analysis of relationship between plasma platinum concentration and hematological adverse reaction associated with weekly chemotherapy using nedaplatin in combination with radiotherapy for cervical carcinoma.	Hamada Y, Hayakawa K, et al	放射線治療科	
Eur J Gynaecol Oncol.	Concomitant expression of HER2 and HIF-1α/p16 is a predictor of poor prognosis in uterine cervical carcinoma treated with concurrent chemoradiotherapy: prospective analysis (KGROG0501).	Niibe Y, Hayakawa K, et al	放射線治療科	
Int J Radiat Oncol Biol Phys	A phase II trial of neoadjuvant preoperative chemoradiotherapy with S-1 plus irinotecan and radiation in patients with locally advanced rectal cancer: clinical feasibility and response rate.	Sato T, Hayakawa K, et al	放射線治療科	計 6件
				合計 170件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 藤井 清孝
管理担当者氏名	事務部長 高橋 修

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理課 放射線部	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号（患者番号7桁）を設定。 中間桁分類法を採用し、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター一部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の第一項の各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター一部 総務課 医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 高橋 修
閲覧担当者氏名	総務次長 潮田 好美
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.2 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		25,182 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,127 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,408 人
	D：初診の患者の数		38,512 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢） 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための方策 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止活動全般に関すること 医療事故発生に伴う対応に関すること 医療事故調査によるフィードバックに関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 39 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント研修会（外部講師・内部講師による、全職員対象） リスクマネジャー研修会（外部講師による） 各種の医療安全研修会（医療KYT、コミュニケーション、分析手法、深部静脈血栓症防止、血管外漏出、転倒・転落の防止、添付文書の読み方、他） 新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時） 復職医師・中途採用医師の随時研修、看護師のフォローアップ研修、その他 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成、機器・器具類の改善等） 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（3名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 所属職員：専任（5）名、兼任（2）名 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療の安全性の向上に関すること（診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、事故発生時の対応状況についての確認と指導） 安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関すること 医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関すること リスクマネジャーとの連絡調整に関すること 医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関すること リスクマネジメント委員会の運営に関すること 医療訴訟、和解に係る事務に関すること その他、医療事故の防止、医療安全管理に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無			
<p>・ 指針の主な内容：平成23年10月1日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成19年4月1日付で制定し、平成22年2月24日付で一部改定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針、指針の改廃手続を定めている。</p> <p>(3) 院内感染管理体制は、院内感染対策全般の対応を協議する院内感染防止委員会と、院内感染防止のための企画・立案を担う感染管理室を病院長直轄として設置している。また、その下部組織には感染対策の実働部隊として院内感染対策チーム（ICT）を配置し、各部署にはICTとの連絡や対策の推進を担うリンクスタッフを任命し、速やかな対応が可能となる管理体制を構築している。</p>				
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回			
<p>・ 活動の主な内容：平成22年度1年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会（ICC）は、原則として毎月第4水曜日午後5時から開催した。</p> <p>(2) ICCの議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC運営や院内感染対策チーム（ICT）などの運営に関する事、ICT活動報告、定期報告、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告は、前月の分離菌や薬剤耐性菌、法令規定の感染症病原菌の検出状況、ウイルス抗原検査状況、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び病原体検出速報、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告である。</p>				
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12 回			
<p>・ 研修の主な内容：平成22年度1年分</p> <p>(1) 採用時研修は、新入職員は入職時年1回、中途採用の医師や看護師は随時実施した。 新規採用の看護師を対象とし、感染防止と看護ケアの講義と、手洗い・針刺し防止・防護具の着脱方法の実技演習を実施した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は年2回開催した。全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各3回開催し、DVDの貸出聴講も実施した。</p>				
開催日	会場	内容	対象	講師
H220512	合同講義室ほか	改訂「院内感染防止対策の手引2010年版」	全職員	感染管理室係長 平田泰良
H221001	合同講義室ほか	院内感染防止対策「ごめんなさい!では済まされない時代」	全職員	大阪大学医学部附属病院感染制御部副部長 浅利 誠志
(3) リンクスタッフを召集した会合は10回、この会合の中で感染対策の研修を7回実施した。				
開催日	会場	内容	講師	
H220513	臨床講義室	標準予防策	感染管理室主任 高城由美子	
H220617	臨床講義室	職員の感染症発生事例から考えること	感染管理室主任 高城由美子	
H220715	臨床講義室	細菌検査の基礎知識	臨床検査部主任 中崎信彦	
H220906	臨床講義室	消毒薬の適正使用	薬剤部副部長 松原 肇	
H220916	合同講義室	今、話題の多剤耐性菌	感染管理室室長補佐 高山陽子	
H221118	臨床講義室	インフルエンザ・感染性胃腸炎の対策	感染管理室主任 高城由美子	
H221216	臨床講義室	院内感染アウトブレイク対策の実例～アシネトバクターの事例と対策も含めて～	自治医科大学感染免疫学講座細菌学部門准教授 林 俊治	



院内感染対策のための体制の確保に係る措置

<p>(4) 院内常駐の委託業者職員を対象に、「病院の環境衛生について」の研修会を開催した。開催日は平成22年12月7日と8日、講師は事務部環境整備課課長補佐座間弘和。</p> <p>(5) 手洗い検証セットを利用した「手洗い技術演習」を6月から12月までの期間に希望部署の職員を対象に実施した。なお、前年度までは全部署対象で実施した。</p>
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p>
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) 平成23年10月1日現在</p> <p>(1) 検査結果速報の整備 臨床検査部門や病院病理部門は、検査や診断の結果、保健行政機関への届出や院内の感染拡大を防止するために院内感染防止委員会が定めた病原体・耐性菌や抗体価の異常値を検出した場合は、その検査結果を検査依頼医・感染管理室・院内感染防止委員会委員長に速報(検査結果速報)する体制。</p> <p>(2) 感染症・食中毒発生報告の整備 医師は、感染症や食中毒を診断した場合には報告書を感染管理室長・院内感染防止委員会委員長に報告する体制。</p> <p>(3) サーベイランスによる発生把握 手術部位感染、血管内留置カテーテル関連血流感染症、尿道留置カテーテル関連尿路感染症、人工呼吸器関連肺炎、その他のサーベイランスによる発生状況の把握</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策は、感染管理室を中心に対応・対策した。</p> <p>(2) 『院内感染防止対策の手引2010年版(第18次改訂版)』を平成22年4月1日付で発行した。</p> <p>(3) 毎週水曜日、ICU・小児病棟の感染症回診を、年間を通じて感染や病原体等に係る質問に対してコンサルテーションした。</p> <p>(4) ICT活動は、毎週水曜日に抗菌薬・耐性菌や血液由来菌を対象とする感染症ラウンド、木曜日は環境ラウンドを実施した。</p> <p>(5) 年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行時の対策、結核対策、食中毒対策(教職員や学生)などを実施した。</p> <p>(6) 『かんせん情報誌』を8回発行し、病原体や感染対策などに関する情報を情報提供した。</p> <p>(7) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』などを掲示し、24時間の閲覧や情報提供に務めた。</p>

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 20回
<p>《研修の主な内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修医 : 医薬品の安全使用について ・正しい処方入力について ○医師 : 添付文書の読み方について ○医師・看護師 : 血管外漏出に注意する薬剤 ○看護師 : 簡易懸法について ・リドカイン製剤について 緑内障の薬物治療 ・内服薬の投与方法について ○医師・看護師・薬剤師 <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全研修会 : 注射薬の血管外漏出への対応医療安全研修会 抗がん剤の副作用対策について ○全職員 : 医薬品安全講習会 : 耐性菌感染症と抗菌薬の適正使用 非ステロイド性消炎鎮痛薬の適正使用について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ○別紙『医薬品安全使用のための業務手順書』目次参照 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理室との定期的な情報交換・収集を行っている (1回/週)。 ○リスクマネジメント委員会の下部組織である投薬・注射 WG で医薬品の安全管理について検討している (1回/月)。 ○医薬品保管の表示の改善 ○薬事委員会下部組織の医薬品適正使用推進委員会、医薬品適正使用検討委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に繋げている。 	

医薬品安全
使用のための
業務手順書
2008



北里大学病院
Kitasato University Hospital

目 次

第1章 医薬品の採用	1
1-1. 採用医薬品の選定	
1-2. 採用医薬品情報の作成・提供	
第2章 医薬品の購入	7
2-1. 医薬品の発注	
2-2. 入庫管理と伝票管理	
第3章 医薬品の管理	8
3-1. 医薬品の管理（保管管理）	
3-2. 医薬品の管理（品質管理）（全病院共通）	
3-3. 規制医薬品の管理	
第4章 医薬品情報の収集・管理・提供	18
4-1. 医薬品情報の収集・管理および専門的評価	
4-2. 医薬品情報の提供	
4-3. 医薬品副作用情報の管理	
第5章 処方	29
5-1. 処方オーダ	
5-2. 処方オーダ時の注意	
第6章 指示だし・指示受け	45
6-1. 指示だし・指示受け手順	
6-2. 緊急時指示だし・指示受け手順	
第7章 調剤業務ならびに病棟・各部門への医薬品の供給	49
7-1. 処方監査・疑義照会・調剤	
7-2. 調剤薬の交付・服薬指導	
7-3. 薬剤交付後の経過観察	
7-4. 注射せんに基づく病棟・各部門への供給	
7-5. 定数配置薬の病棟・各部門への供給	
第8章 与薬業務	53
8-1. 与薬業務基準	
8-2. 与薬方法	
8-3. 輸液・輸注ポンプ	
8-4. カラーシリンジ	
8-5. 薬物血中濃度モニタリング（TDM）の実施	

第9章 服薬管理	76
9-1. 薬剤師による服薬指導	
9-2. 投与後の経過観察と服薬指導記録作成	
9-3. 外来患者からの相談	
第10章 持参薬の取り扱い	81
10-1. 患者情報の収集・管理・活用	
10-2. 入院時の使用医薬品の確認	
第11章 トラブル対応	85
11-1. 注射薬誤注入時の対応	
11-2. 血管外漏出について	
11-3. 低血糖時対応	
11-4. 副作用報告の方法	
11-5. 麻薬破損・紛失対応	
第12章 緊急時使用医薬品	96
12-1. ファーストライン医薬品	
12-2. セカンドライン医薬品	
第13章 ハイリスク医薬品	98
13-1. 抗がん薬	
13-2. カリウム製剤	
13-3. ワルファリンカリウム	
13-4. インスリン	
13-5. 循環作動薬	
13-6. 麻薬	
13-7. 向精神薬	
13-8. 筋弛緩薬	
第14章 特殊医薬品	127
第15章 各科特別マニュアル	132
15-1. 小児科	
15-2. 手術・麻酔部門	
15-3. 救急部門・集中治療室	
第16章 他施設との連携	135
16-1. 薬-薬連携	
16-2. 他施設からの問い合わせ等に関する体制整備	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年50回以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 人工呼吸器の取扱いについて 閉鎖式保育器の取扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて 除細動器の取扱いについて 補助循環装置の取扱いについて 輸液シリンジポンプの取扱いについて など 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (☑・無) ・ 保守点検の主な内容： 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電機的安全性点検) 終了時点検 (作動点検、外観点検) 日常点検 (ラウンド点検、作動点検、使用法確認) 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) 医療機器安全使用研修会の買い扱い・修了証の発行 など 	